

## 小千谷市建設課

調査日：平成 16 年 11 月 29 日（月）

班：道路ネットワーク班

分類別：復旧・復興状況

キーワード別：一般道路、交通ネットワーク、輸送

### 調査結果

#### (1)震災直後の状況（初動体制・情報収集等）

- ・震度 5 以上で職員は自動招集となる。
- ・上越市から自衛隊の先遣隊が 1 時間後に到着したが、彼らから国道 8 号等の状態を聞いて、長岡からは 1 本道路が利用できることを確認した。
- ・当日夜は、庁舎車庫のシャッターが開かなくなったが、突き破って車を出した。6～7 台で道路被災状況の確認に出かけ、22 時には概ね状況は把握した。防災無線は、5km を超えると使えなかったため、また携帯電話も通じなかったため、これらの車両が戻ってくるまでは状況は分からなかった。
- ・翌朝、再度詳細な調査を実施した。
- ・食料・支援物資の受け入れや避難所の用意などの対応で職員を出さなければならなかった。
- ・7/16 の豪雨被害の時に危機管理の練習が出来ていた。

#### (2)応急修復の実施状況

- ・翌日に近隣の土木業者に出向き協力を依頼し、また（被害の比較的少ない）北部の業者にも市役所に来てもらった。結局地場の業者で作業するしかない。動ける業者がどれくらいいるかが重要である。
- ・砂利を入れれば通れるようになる道路は結構あり、まずは車が 1 台通れるようにすることを優先した。その結果、4 日後には大体のネットワークは確保できた。
- ・除雪対応の舗装は完全には不可能である。
- ・応急処置の優先順位は特に考えなかった。国の被害査定が出たら順に直さざるを得ない状況である（苦情もあり意図的に待つことなど出来ない）。
- ・消雪パイプは、勾配が狂った所もあるが、破損自体は少なかった。
- ・二度手間は避けたいため、機能向上は特に考えず、従前機能までの本復旧を考えている。

#### (3)交通規制・管理の実施状況

- ・通行止規制は、国県道であっても市が自主的に判断して規制をかけていた。対策本部に情報が集まるため、警察にも本部に来て確認してもらって、正式に通行止にしてもらった。
- ・避難所への物資輸送は自動車と軽トラックで対応していた状態であったため、一回で多くのものは運べなかった。自衛隊の車両が到着して輸送力が激増した。車種別の通行可能性の判断が重要である。
- ・この冬の除雪は通常の 90%程度は実施するつもりでいる。